作成日1978年1月10日
発行日2024年4月1日

安全データシート（SDS）

1．化学品及び会社情報

化学品の名称：	エスロンドレンタイト５０２ 主剤
供給者の会社名称：	積水化学工業株式会社
住所：	〒105-8566　東京都港区虎ノ門2-10-4（ｵｰｸﾗﾌﾟﾚｽﾃｰｼﾞﾀﾜｰ）
担当部門：	環境･ライフラインカンパニー　管材事業部
電話番号：	03－6748－6492
緊急連絡電話番号：	03－6748－6492
FAX番号：	03－6748－6564
緊急連絡先：	上記担当部門
推奨用途及び使用上の制限：	下水道用接合剤 所定の用途以外には使用しないこと
整理番号：	SLO-052

2．危険有害性の要約

GHS分類

物理化学的危険性	爆発物	区分に該当しない
	可燃性ガス	区分に該当しない
	エアゾール	区分に該当しない
	酸化性ガス	区分に該当しない
	高圧ガス	区分に該当しない
	引火性液体	区分に該当しない
	可燃性固体	区分に該当しない
	自己反応性化学品	区分に該当しない
	自然発火性液体	区分に該当しない
	自然発火性固体	区分に該当しない
	自己発熱性化学品	分類できない
	水反応可燃性化学品	区分に該当しない
	酸化性液体	区分に該当しない
	酸化性固体	区分に該当しない
	有機過酸化物	区分に該当しない
	金属腐食性化学品	分類できない
	鈍性化爆発物	区分に該当しない
健康に対する有害性	急性毒性（経口）	区分に該当しない
	急性毒性（経皮）	分類できない
	急性毒性（吸入：ガス）	区分に該当しない
	急性毒性（吸入：蒸気）	分類できない
	急性毒性（吸入：粉じん、ミスト）	分類できない
	皮膚腐食性・刺激性	区分2
	眼に対する重篤な損傷・眼刺激性	区分2B
	呼吸器感作性	分類できない
	皮膚感作性	区分1
	生殖細胞変異原性	分類できない
	発がん性	分類できない
	生殖毒性	分類できない
	特定標的臓器・全身毒性（単回ばく露）	区分3（気道刺激性 ）
	特定標的臓器・全身毒性（反復ばく露）	区分1（呼吸器 ）
	誤えん有害性	分類できない
環境に対する有害性	水生環境有害性　短期（急性）	区分1
	水生環境有害性　長期（慢性）	区分1
	オゾン層への有害性	分類できない

絵表示又はシンボル:

注意喚起語: 危険

危険有害性情報:
H315+H320　皮膚及び眼刺激
H317　アレルギー性皮膚反応を起こすおそれ
H335　呼吸器への刺激のおそれ
H372　長期にわたる、又は反復ばく露による呼吸器の障害
H410　長期継続的影響によって水生生物に非常に強い毒性

注意書き:

安全対策
ガスの吸入を避けること。(P261)
ミスト、蒸気、スプレーの吸入を避けること。(P261)
粉じん、ヒュームの吸入を避けること。(P261)
取扱い後はよく手を洗うこと。(P264)
取扱い後はよく眼を洗うこと。(P264)
この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしないこと。(P270)
屋外又は換気の良い場所でのみ使用すること。(P271)
汚染された作業衣は作業場から出さないこと。(P272)
環境への放出を避けること。(P273)
保護手袋を着用すること。(P280)

応急措置
皮膚に付着した場合、多量の水と石鹸で洗うこと。(P302+P352)
吸入した場合、空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。(P304+P340)
眼に入った場合、水で数分間注意深く洗うこと。次に、コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。(P305+P351+P338)
気分が悪い時は、医師に連絡すること。(P312)
気分が悪い時は、医師の手当て、診断を受けること。(P314)
特別な処置が必要である。(P321)
皮膚刺激が生じた場合、医師の診断、手当てを受けること。(P332+P313)
皮膚刺激又は発疹が生じた場合は、医師の診断、手当てを受けること。(P333+P313)
眼の刺激が続く場合、医師の診断、手当てを受けること。(P337+P313)
汚染された衣類を脱ぎ、再使用する場合には洗濯すること。(P362+P364)
漏出物は回収すること。(P391)

保管
容器を密閉して換気の良い場所で保管すること。(P403+P233)
施錠して保管すること。(P405)

廃棄
内容物、容器を都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に業務委託すること。(P501)

3. 組成及び成分情報

化学物質・混合物の区分: **混合物**
化学名又は一般名: **エポキシ樹脂化合物**
危険有害成分: ビスフェノールA型エポキシ樹脂、酸化チタン、ポルトランドセメント

成分	含有量	CAS番号	官報公示整理番号(化審法・安衛法)	備考
ﾋﾞｽﾌｪﾉｰﾙA型ｴﾎﾟｷｼ樹脂	30～35%	25068-38-6	(7)-1283	
ﾄﾘﾒﾁﾙﾌﾟﾛﾊﾟﾝのｸﾞﾘｼｼﾞﾙﾎﾟﾘｴｰﾃﾙ	5～14%	30499-70-8	(7)-343	
非晶質シリカ	5～14%	112926-00-8	(1)-548	
酸化チタン	1～10%	13463-67-7	(1)-558	
ポルトランドセメント	45～50%	65997-15-1		

※含有量は機密情報のため範囲記載しております。

4. 応急措置

吸入した場合:
被災者を新鮮な空気のある場所に移動し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。
必要に応じて医師の診断、手当てを受けること。

皮膚に付着した場合:
すぐに拭き取り、大量の水と中性石鹸で十分に洗う。
汚染された衣類を脱ぎ、再使用する前に洗濯すること。
皮膚刺激が生じた場合、気分が悪い時は、医師の診断、手当てを受けること。

眼に入った場合:
大量の水で15分以上、注意深く洗うこと。次に、コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。

医師の診断、手当てを受けること。

飲み込んだ場合:
自発的に嘔吐できる場合は、水で口の中をよく洗浄し、多量の水を飲ませて吐き出させる。
直ちに医師の診断、手当てを受けること。

医師に対する特別注意事項:
情報なし

5. 火災時の措置

適切な消火剤:
炭酸ガス消火剤、粉末消火剤、泡消火剤

使ってはならない消火剤:
棒状注水

特有の消火方法:
火元への燃焼源を断ち、消火剤を用いて消火する。
大規模火災には、泡消火剤を用いて空気を遮断する。
消火活動は可能な限り風上から行い、状況によっては呼吸保護具を着用する。
水の使用は火災を拡大し危険な場合がある。

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置:
作業者は適切な保護具（8．ばく露防止及び保護措置の項を参照）を着用し、眼、皮膚への接触やガスの吸入を避ける。
漏出した場所の周辺に、ロープを張るなどして関係者以外の立ち入りを禁止する。

環境に対する注意事項:
河川等に排出され、環境へ影響を起こさないように注意する。

封じ込め及び浄化の方法及び機材:
少量の場合、砂、ウエス等に吸着させ、密閉容器に回収する。
大量の場合、盛土で囲ってせき止めし、漏出したものをすくいとる。又は砂、ウエス等に吸着させて密閉容器に回収する。

二次災害の防止策:
付近の着火源となるものを速やかに除くとともに消火剤を準備する。

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い

技術的対策:
吸入・接触のおそれがあるときは適切な保護具を使用する。
火気厳禁。

局所排気・全体換気:
取り扱う場合は、局所排気内、または全体換気の設備のある場所で取り扱う。

安全取扱い注意事項:
周辺での高温物、スパーク、火気の使用を禁止する。
この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしないこと。
取扱い後はよく手を洗うこと。
眼、皮膚、衣類に付けないこと。
蒸気、ミスト、スプレーを吸入してはならない。
すべての安全注意を読み理解するまで取扱わないこと。
屋外又は換気の良い区域でのみ使用すること。

保管

保管条件:
熱、火花、裸火のような着火源から離して保管すること。－禁煙。
冷所、換気の良い場所で貯蔵すること。
施錠して貯蔵すること。

8．ばく露防止及び保護措置

設備対策： 蒸気を吸入しないように、局所排気装置の設置、設備の密閉化または全体換気を適正に行うことが望ましい。

管理濃度： 未設定

許容濃度（ばく露限界値、生物学的ばく露指標）：

日本産衛学会（2005年版）	未設定
ACGIH（2005年版） TLV-TWA	ポルトランドセメント　1mg/m^3

保護具

呼吸器の保護具：	有機ガス用防毒マスク
手の保護具：	不浸透性保護手袋
眼の保護具：	側板付き普通眼鏡型ゴーグル
皮膚及び身体の保護具：	長袖作業着

衛生対策： 取扱い後はよく手を洗うこと。

9．物理的及び化学的性質

物理状態：	灰白色パテ状
臭い：	特有の臭気
融点/凝固点：	データなし
沸点又は初留点及び沸騰範囲：	データなし
可燃性：	データなし
爆発下限及び爆発上限界/可燃限界：	データなし
引火点：	約250℃
自然発火点：	データなし
分解温度：	データなし
pH　：	測定不可
動粘性率：	該当せず
溶解度：	水に不溶
n-オクタノール/水分配係数：	データなし
蒸気圧：	該当せず
密度及び/又は相対密度：	約1.6～1.9 (at 20℃)
相対ガス密度：	空気より大
粒子特性：	データなし

10．安定性及び反応性

反応性：	通常の取扱では安定である。
化学的安定性：	通常の取扱では安定である。
危険有害反応可能性：	強酸化剤、強ルイス酸、強無機酸、強無機塩基、有機塩基（特に1，２級の脂肪族アミン）と激しく反応する。
避けるべき条件：	加熱。
混触危険物質：	酸化剤、有機塩基等。
危険有害な分解生成物：	熱分解等により、アルデヒド、酸、有機物等が発生する。

11．有害性情報

急性毒性（経口）：	混合物の推定値ATEmix=11400mg/kgから区分外に分類される。
急性毒性（経皮）：	確定値が得られていないため分類できない。
急性毒性（吸入：ガス）：	GHSの定義による固体。
急性毒性（吸入：蒸気）：	蒸気に関するデータなし。
急性毒性（吸入：粉塵、ミスト）：	粉塵、ミストに関するデータなし。
皮膚腐食性・刺激性：	区分2を１０％以上含むため、混合物として区分2に分類される。
眼に対する重篤な損傷・眼刺激性：	区分2Bを１０％以上含むため、混合物として区分2Bに分類される。
呼吸器感作性又は皮膚感作性：	呼吸器感作性：データなし。 皮膚感作性：区分1を０．１％以上含むため、混合物として区分1に分類される。

生殖細胞変異原性:	混合物として区分に該当しない
発がん性:	既存分類がないため分類できない。
生殖毒性:	混合物として区分に該当しない
特定標的臓器・全身毒性（単回ばく露）:	混合物として区分3の成分を20%以上含むため、区分3(気道刺激性)に分類される。
特定標的臓器・全身毒性（反復ばく露）:	混合物として区分1の成分を10%以上含むため、区分1(呼吸器)に分類される。
誤えん有害性:	40℃の動粘性率が20．5mm2/s以上のため、区分に該当しない

厚生労働省の有害性調査の結果、微生物を用いる変異原性試験及び哺乳類培養細胞を用いる染色体異常試験の結果、所定の基準を超える変異原性が認められており健康障害を生じる可能性がある。

12. 環境影響情報

生態毒性	現在のところ知見なし。
残留性・分解性	現在のところ知見なし。
生態蓄積性	現在のところ知見なし。
土壌中の移動性	現在のところ知見なし。
水生環境有害性　短期（急性）:	区分１成分を２５％以上含むため、区分１に分類される。
水生環境有害性　長期（慢性）:	区分１成分を２５％以上含むため、区分１に分類される。
オゾン層への有害性:	当該品の成分はモントリオール議定書の附属書に列記されていない為、分類出来ない。

13. 廃棄上の注意

化学品、汚染容器及び包装の安全で、かつ、環境上望ましい廃棄、又はリサイクルに関する情報	廃棄においては、関連法規ならびに地方自治体の基準に従うこと。 都道府県知事などの許可を受けた産業廃棄物処理業者、もしくは地方公共団体がその処理を行っている場合にはそこに委託して処理する。 廃棄物の処理を依託する場合、処理業者等に危険性、有害性を充分告知の上処理を委託する。 容器は清浄してリサイクルするか、関連法規ならびに地方自治体の基準に従って適切な処分を行う。 空容器を廃棄する場合は、内容物を完全に除去すること。

14. 輸送上の注意

国際規制

国連番号:	3077
品名(国連輸送名):	環境有害性物質（固体）ーエポキシ樹脂
国連分類:	9
容器等級:	Ⅲ
海洋汚染防止法:	有害液体物質 （施行令別表第1 X類 ﾋﾞｽﾌｪﾉｰﾙA型ｴﾎﾟｷｼ樹脂） 但し容器1個当たりの容量が5L以下は非該当

国内規則

指針番号	171
陸上規制情報	消防法の規定に従う。
海上規制情報	船舶安全法、港則法、海洋汚染防止法の規定に従う。
航空規制情報	航空法の規定に従う。

特別の安全対策	消防法の規定に従う。 危険物は当該危険物が転落し、又は危険物を収納した運搬容器が落下し、転倒しもしくは破損しないように積載すること。 危険物又は危険物を収納した容器が著しく摩擦又は動揺を起こさないように運搬すること。 危険物の運搬中危険物が著しく漏れる等災害が発生する恐れがある場合には、災害を防止するための応急措置を講ずると共に、もよりの消防機関その他の関係機関に通報すること。 移送時にイエローカードの保持が必要。 食品や飼料と一緒に輸送してはならない。

１５．適用法令

労働安全衛生法：	名称等を通知すべき有害物（法第５７条の２） （酸化チタン、ポルトランドセメント） 名称等を表示すべき有害物（施行令第１８条） （酸化チタン、ポルトランドセメント） 第2種有機溶剤等（有機溶剤中毒予防規則第1条第1項第4号） （該当せず） 変異原性物質 （ﾋﾞｽﾌｪﾉｰﾙA型ｴﾎﾟｷｼ樹脂） がん原性物質（労働安全衛生規則第34条の2の4） （該当せず） 皮膚等障害化学物質（法第22条関連） （ﾋﾞｽﾌｪﾉｰﾙA型ｴﾎﾟｷｼ樹脂）
消防法：	該当せず
化学物質管理促進法（PRTR法）：	該当せず
毒物及び劇物取締法：	該当せず
海洋汚染防止法：	有害液体物質含有 （施行令別表第1 X類 ﾋﾞｽﾌｪﾉｰﾙA型ｴﾎﾟｷｼ樹脂） 但し、容器1個当たりの容量が5L以下は非該当

１６．その他の情報

引用文献

1) 化学物質等安全データシート（MSDS）－第１部：内容及び項目の順序
2) 製品安全データシートの作成指針（改訂版）、社団法人日本化学工業協会
3) GHS分類結果データベース、独立行政法人製品評価技術基盤機構ホームページ
4) 化学物質の危険・有害性便覧　中央労働災害防止協会
5)GHSに基づく化学品の危険有害性情報の伝達方法－ラベル、作業場内の表示及び安全ﾃﾞｰﾀｼｰﾄ（SDS）　JIS Z 7253:2019

記載内容は現時点で入手できた資料や情報に基づいて作成いたしておりますが、記載のデータや評価に関しては、情報の完全さ、正確さを保証するものではありません。また、記載事項は通常の取り扱いを対象としたものですので、特別な取り扱いをする等の場合には新たに用途、用法に適した安全対策を実施の上、お取り扱い願います。